

## 英語教育における非言語表現と言語表現の融合 —アートとナラティブの活用—

草薙優加

本発表では、大学英語教育へのビジュアル・アートとナラティブの導入（学生によるビジュアル・アート制作と作品解釈の語り）を紹介し、アートとナラティブの教育的可能性を報告する。日本の大学一般教育における英語教育にはいくつかの問題点がある。大学入学前に英語を6年間学習したにもかかわらず、多くの学生が、すべてのスキルにおいて、その能力を十分に獲得出来ていない。その原因の一つとして、学習意欲の欠如が指摘されており、英語学習の意欲を高める授業づくりが必要である。また、外国語という学習環境下、授業での英語使用の機会を最大限に活用する必要があり、特に口頭でのアウトプット活動にはペア学習やグループ学習が必須である。しかしながら、近年、母語使用でさえ、他者と言葉を交わすことに困難を感じる学生が増加している。これらの問題に対処するために、非言語表現モードとして簡単なアート作品（モンタージュ）を制作し、その作品を媒介として、作品を解釈しながらストーリーをつくり、それを語り伝える言語表現活動を授業に取り入れた。本発表では、まず、意味生成や自己探求というアートの本質とナラティブの理論を論じる。そして、英語教育では通常導入されていない、これらの表現活動がもたらした、自己理解と他者への興味の促進という副次的産物が、学習者の言語生産と学習意欲にどのように影響したのか、教員観察、学生の省察コメント等から探る。